慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小特集 : 低環境負荷型社会の構築に向けて
Sub Title	序 Preface
Author	山口, 光恒 細田, 衛士
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1999
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.92, No.2 (1999. 7) ,p.241(1)- 243(3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集 : 低環境負荷型社会の構築に向けて
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19990701-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」92巻2号（1999年7月）

小特集：低環境負荷型社会の構築に向けて

1998年12月21日と22日の二日間にわたり，慶應義塾大学三田キャンパス内北新館において経済学会コンファレンス「低環境負荷型社会の構築に向けて」を開催した。この小特集はその成果をまとめたものであり，三田学会雑誌85巻4号（1993年1月）の小特集「環境と経済」，『地球環境経済論（上・下）』，『持続可能性の経済学』そして『ゼミナール地球環境論』（以上すべて慶應義塾大学出版会）等の系譜に連なるものである。今回のコンファレンスでは，環境問題に関する様々なテーマの中で，地球温暖化問題と廃棄物問題に焦点を当て，「地球温暖化対策の理論分析」，「地球温暖化対策のモデル分析」，「廃棄物問題」の三つのセッションを設けて論文報告ならびに討論を行った。

今回のコンファレンスの特徴の一つは，セッション毎に最適と考えられる討論方法を採用したことである。21日午前の「地球温暖化対策の理論分析」のセッションでは，岡敏弘氏（福井県立大学）に2本の論文への討論をお願いしたが，両論文の比較を通じてそれぞれの論文の特質が明らかになった。続く午後の「地球温暖化対策のモデル分析」のセッションでは，新保一成氏（慶應義塾大学）と森俊介氏（東京理科大学）より討論者としてのコメントがあった。新保一成氏は，3本の論文に対してトップダウン方式の観点から，森俊介氏は，森田論文，山地論文に対して，ボトムアップ方式の観点から詳細な解説および論点の批判的吟味がなされた。翌22日午前の「廃棄物問題」のセッションでは，それぞれの論文に対して理論的ならびに実証的な観点から，鷲田豊明（神戸大学），松波淳也（法政大学），大沼あゆみ（東京外国語大学）の3人の研究者よりコメントがあった。

京都議定書の具体化に向けて政策論議が活発化し，また廃棄物処理・リサイクルレジームが急激に変化しつつある今日において，義塾内外の研究者間の学術交流を行うことができ，極めて有意義なコンファレンスであったと考えている。

今回の小特集では，報告論文の改定版に「我が国の廃棄物政策と拡大生産者責任（EPR）OECDにおける議論を中心に」（山口論文）を加えたものを掲載する。これからの廃棄物処理・リサイクルのレジームはいわゆる「拡大生産者責任」を軸として展開することが予想され，今回のコンファレンス論文と共に山口論文を小特集に収めることは，テーマにかなったことであると考える。

コンファレンス・プログラムは以下の通りである。

コンファレンス・プログラム

12月21日午前：地球温暖化対策の理論分析

座長：深海博明（慶應義塾大学）

第1報告：藤田康範（慶應義塾大学）「排出権取引とCDMの複合効果」

第2報告：横山彰（中央大学）「地球温暖化対策としての柔軟性措置に関する政治経済分析」

討論者：岡敏弘（福井県立大学）

12月21日午後：地球温暖化対策のモデル分析

座長：山口光恒（慶應義塾大学）

第1報告：森俊介（東京理科大学）「地域環境統合モデルMARIA-7による世界経済の公平性評価」
——温暖化対策と食料供給危機の世界経済への影響——

第2報告：森田恒幸（国立環境研究所）「AIMモデルを用いた京都議定書の対策評価」

第3報告：山地憲治（東京大学）「地球再生計画展開への長期戦略」

討論者：新保一成（慶應義塾大学）
森俊介（東京理科大学）

12月22日午前：廃棄物問題

座長：寺出道雄（慶應義塾大学）

第1報告：小出秀雄（一橋大学大学院）"Deposit-Refund, Recycling and Consumer's Utility"
討論者：鷲田豊明（神戸大学）

第2報告：中村愼一郎（早稲田大学政治経済学部）「拡張産業連関モデルによる廃棄物循環分析」
討論者：松波淳也（法政大学）

第3報告：細田衛士（慶應義塾大学）「誰が廃棄物処理費用を払うのか」
討論者：大沼あゆみ（東京外国語大学）

なお，コンファレンスに先立って，以下の3回の研究会を開き，予め共通知識の確認ならびに拡充を図った。この点も今回のコンファレンスの特徴の一つである。

第1回：9月30日　慶應義塾大学三田キャンパス内新研究棟638教室
演題：「地球温暖化対策のモデル分析（1）」
講演者：森田恒幸（国立環境研究所）

第2回：11月2日　慶應義塾大学三田キャンパス内新研究棟638教室
演題：「地球温暖化対策のモデル分析（2）」
講演者：山地憲治（東京大学）

第3回：12月10日　慶應義塾大学三田キャンパス内新研究棟547教室
演題：「廃棄物問題の経済分析」
講演者：細田衛士（慶應義塾大学）

地球温暖化問題と廃棄物・リサイクル問題に関しては，理論的・実証的な観点から，あるいは政策的観点から今後益々大きな議論が巻き起こると考えられる。慶應義塾大学経済学部地球環境プロジェクトは，従来からこうした研究を経済学的アプローチで行なってきたが，このコンファレンスを機に，研究水準を一層高めて行きたいと考えている。

山　口　光　恒
（経済学部教授）
細　田　衛　士
（経済学部教授）